

よくわかる！

**病害虫防除
マニュアル
トマト・
ミニトマト編**

そーだ、
にほんそーだに
そーだんしょう！



日本曹達株式会社

トマト・ミニトマトの生育にあわせて、適切な防除を! 日曹の製品がお役に立ちます。

[] RACコード
ハウスで使用
するくん煙剤
「トマト」にのみ登録
「ミニトマト」の登録なし

土壌病害・ネコブセンチュウには…

バスアミド[®] 微粒剤

使用時期／は種又は定植21日前
使用回数／1回

適用病害虫名など	使用量	使用方法
苗立枯病 (リゾクトニア菌)	200～300g/m ³	所定量を加え 十分混和
紅色根腐病	30kg/10a	所定量を 均一に散布後 土壌と混和
萎凋病、白絹病 褐色根腐病 根腐萎凋病 半身萎凋病 ネコブセンチュウ 一年生雑草	20～30kg/10a	
青枯病	30～60kg/10a	

土壌消毒

定植期の害虫には…

モスピラン[®] 粒剤

(4A)

アベイル[®] 粒剤

(4A、28)

ベリマーク^{SC}

(28)

適用害虫名	使用量(薬量) もしくは希釈倍数	使用量(希釈水量) もしくは使用液量	使用時期／ 使用回数	使用方法
アブラムシ類、アザミウマ類 コナジラミ類、ハモグリバエ類 トマトキバガ	400株当り 25ml	400株当り10~20ℓ (1株当り25~50ml) 400株当り20~200ℓ (1株当り50~500ml)	育苗期後半 ~定植当日/1回 定植直後/1回	灌注 株元灌注
コナジラミ類	200倍	※	育苗期後半 ~定植当日/1回	灌注
	10,000倍	1~3ℓ/m ²	定植14日後まで /1回	株元灌注

(注意:定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注は1回以内)

定植期

生育期の害虫には…

適用害虫名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	その他の適用害虫
アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 (4A)	2000倍	前日/3回	—
コナジラミ類	モスピラン顆粒水溶剤 (4A)	2000倍	前日/3回	—
	モスピランジェット (4A)	50g/400m ³	前日/3回	ミカンキイロアザミウマ
オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤 (28)	2000~4000倍	前日/2回	ハスモンヨトウ
トマトキバガ	フェニックス顆粒水和剤 (28)	2000倍	前日/2回	ハスモンヨトウ



モスピラン[®] 顆粒水溶剤



フェニックス[®] 顆粒水和剤



モスピラン[®] ジェット

生育期(本圃での散布)

収穫期

生育期の病害には…

適用病害名	製品名	希釈倍数 または使用量*	使用時期／ 使用回数*	その他の 適用病害*
灰色かび病	ミギワ10フロアブル (52)	1000倍	前日/3回	菌核病
	ファンベル顆粒水和剤 (M7,11)	1000倍	前日/3回	うどんこ病、すすかび病 葉かび病、菌核病
	ゲッター水和剤 (10,1)	1000~1500倍 (1500倍)	前日/5回 (前日/3回)	菌核病 葉かび病
	フルピカフロアブル (9)	2000~3000倍	前日/4回	—
	カンタスドライフロアブル (7)	1000~1500倍	前日/3回	菌核病 葉かび病
葉かび病	ベルコートフロアブル (M7)	2000~4000倍 (4000倍)	前日/3回 (前日/2回)	うどんこ病、灰色かび病 (斑点病)
	フセキワイドフロアブル (M7,53)	1000倍	前日/3回	うどんこ病 すすかび病
	トリフミンジェット (3)	50g/400m ³	前日/5回	—
すすかび病	ダコニールジェット (M5)	20g/100m ³	前日/4回	—
	ファンタジスタ顆粒水和剤 (11)	2000~3000倍	前日/3回	灰色かび病、菌核病、葉かび病 斑点病、立枯病(2000倍)
	ベルコートフロアブル (M7)	2000~4000倍 (4000倍)	前日/3回 (前日/2回)	うどんこ病、灰色かび病 (斑点病)
	トリフミン水和剤 (3)	3000倍	前日/5回	うどんこ病、葉かび病 (3000~5000倍)
	トリフミン乳剤 (3)	2000倍	前日/5回	すすかび病 葉かび病
うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 (U6,3)	2000倍	前日/2回	—
	パンチョTFジェット (U6,3)	50g/400m ³	前日/2回	—
疫病	ベトファイター顆粒水和剤 (27,40)	2000倍	前日/3回	—
	エトフィンフロアブル (22)	1000倍	前日/4回	—
	ムッシュボルドーDF (M1)	500倍	※1/—	—
	ピシロックフロアブル (U17)	1000倍	前日/3回	—
	マイコシールド (41)	1000~2000倍	※2	—
かいよう病	マスタピース水和剤 (生物農薬)	1000~2000倍	前日/—	茎えそ細菌病 軟腐病



ミギワ10[®] フロアブル



ファンタジスタ[®] 顆粒水和剤



カンタス[®] ドライフロアブル



フルピカ[®] フロアブル



トリフミン[®] 乳剤



ピシロック[®] フロアブル



エトフィン[®] フロアブル



トリフミン[®] 水和剤



ムッシュボルドー[®] DF



ゲッター[®] 水和剤



ベルコート[®] フロアブル



フセキワイド[®] フロアブル



ベトファイター[®] 顆粒水和剤



ダエール[®] ジェット



パンチョTF[®] ジェット



トリフミン[®] ジェット

TOPIC 1 その他の場面で役立つ製品

■前作が終わったら…

キルパー[®]

使用量／40~60ℓ/10a
使用時期／前作の栽培終了後から
残渣撤去まで 但し、は種
又は定植の15日前まで
使用目的／古株枯死、
ネコブセンチュウ蔓延防止、
アザミウマ類蔓延防止、
コナジラミ類蔓延防止、
すすかび病蔓延 など
土壌消毒にも使えます。



■かいよう病、茎えそ細菌病、
軟腐病防除に生物殺菌剤

マスタピース[®]

水和剤

1000~2000倍

使用時期／前日まで
使用回数／—



■カルシウム欠乏によるしり腐症、新葉の黄化には…

カルクロン[®] または

アグリメイト[®]

[カルクロン200倍又はアグリメイト 500倍]を3~4回葉面散布します。



■一年生イネ科雑草の防除には…

ナブ[®] 乳剤⁽¹⁾

使用量／150~200ml(希釈水量／100~150ℓ/10a)
使用時期／収穫14日前まで
登録作物にかかっても、影響はありません。



TOPIC 2 マルハナバチに対する影響日数

種別	製品名	安全日数
殺菌剤	エトフィンフロアブル	影響なし
	カンタスドライフロアブル	影響なし
	ゲッター水和剤	1日
	トップジンM水和剤、ゾル トリフミン水和剤	影響なし
	トリフミン乳剤	1日
	バンチョTF顆粒水和剤	影響なし
	ピシロックフロアブル	影響なし
	ファンタジスタ顆粒水和剤	影響なし
	ファンベル顆粒水和剤	影響なし
	フセキワイドフロアブル	影響なし
殺虫剤	フルピカフロアブル	影響なし
	ベトファイター顆粒水和剤	影響なし
	ベルコートフロアブル	影響なし(2000倍)
	ベルコート水和剤	影響なし(3000-6000倍)
	ミギワ10フロアブル	影響なし
	アベイル粒剤	1日
	フェニックス顆粒水和剤	1日
	ベリマークSC	1日
	モスピラン顆粒水溶剤	1日
	モスピラン粒剤	1日
くん煙剤	ダコニールジェット	1日
	トリフミンジェット	1日
	パンチョTFジェット	1日
	モスピランジェット	1日



マルハナバチ

*影響なし:薬剤が乾けば導入可能 *翌日導入可:散布翌日の導入が可能
*日数記載:記載の日数以上あけてから導入が可能



トマト・ミニトマト病虫害図鑑

病 害

【青枯病 *Ralstonia solanacearum*】

被害検査とともに土壤中に生存していた病原菌が長期間生存して伝染源となる。また、収穫時や剪定時にハサミの切り口からも伝染する。地際部茎の導管が褐変し、地上部が数日でしおれ、回復しない。(青枯れ症状)



急激に株が萎れる



導管部が黒褐変

適用薬剤 バスアミド微粒剤

【うどんこ病 *Leveillula taurica, Oidium sp., Pseudoidium neolycopersici*】

発病植物上で形成された分生子によって伝染。葉にうどんこ状の病斑を生じる。施設栽培で被害がある。



発病葉



発病進展葉

適用薬剤 バンチョTF顆粒水和剤、ベルクートフロアブル など

【疫病 *Phytophthora infestans*】

被害作物の菌糸によって土壤中で越冬し、伝染源となる。また、パレイショの発病茎葉から飛散した胞子によっても感染する。葉、果実、茎に褐色のややく窪んだ病斑を生じる。

発病葉(褐色の不整形病斑)



褐色水浸病斑



発病茎



発病果

適用薬剤 ビシロックフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤 など

【菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*】

地面に落ちた菌核が伝染源となる。茎や果実に灰白色綿状のかびを形成し、後にネズミ糞状の菌核を生じる。



発病茎



白色綿状菌糸を生じる



発病茎内の黒色菌核



発病果

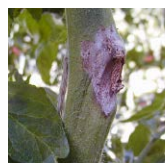
適用薬剤 トップジンM水和剤 など

【灰色かび病 *Botrytis cinerea*】

圃場に残った発病葉・発病果上の病原菌や、地表面に菌核として残ったものが伝染源となる。次期作では、そこから胞子が飛散して伝染する。果実、茎、葉に灰色かびを密生した病斑を生じる。



初期病斑



発病茎



発病幼果

適用薬剤 ゲッター水和剤、ミギワ10フロアブル など

【葉かび病 *Passalora fulva*】

病原菌は各種資材に付着して越冬。気温20～25℃で多湿条件下での発生が多く、とくに施設栽培での被害が大きい。葉裏に灰色ビロード状のかびを生じる。



発病葉(葉表)



発病葉(葉裏)

適用薬剤 フェセキワイドフロアブル、トリフミン水和剤 など

害 虫

【オオタバコガ *Helicoverpa armigera*】

幼虫は、葉を食害するほか、新芽、花蕾、果実、茎の中などに潜り込んで食害する。広食性。



中齢幼虫



幼虫の茎内侵入口



幼虫の茎内侵入



幼虫による果実食害



成虫

適用薬剤 フェニックス顆粒水和剤

【オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*】

成虫、幼虫とも葉から吸汁し、作物の生育を抑制。排泄物によるすす病を発生。



2齢幼虫
及び4齢幼虫



成虫



排泄物による
すす病

適用薬剤 モスピラン顆粒水溶剤 など

【ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani*】

葉や果実から吸汁し、作物の生育を抑制する。モザイク病を媒介する。



成虫



寄生した葉

適用薬剤 ペリマークSC、モスピラン顆粒水溶剤 など

【トマトサビダニ *Aculops lycopersici*】

加害による果実さび症状、肥大にともなう細かい亀裂、葉の奇形、変色、芯止まりなど、乾燥条件下で多発する傾向がある。



被害果(細かい亀裂)



成虫、幼虫、卵

【トマトハモグリバエ *Liriomyza sativae*】

成虫は卵を葉肉に1個ずつ産み付ける。幼虫は葉肉内を潜孔しながら食害する。寄生範囲が広い。



成虫



成虫の産卵痕



幼虫による被害と成虫

適用薬剤 アベイル粒剤、モスピラン粒剤 など

【ミカンキロアザミウマ *Frankliniella occidentalis*】

夏には黄色型、冬には褐色型が多い。子房への産卵では、幼果のときに産卵痕が凹んで周囲が白く膨れ、成熟後も褐色の斑点として残る。



成虫



産卵によるトマト果実の白ぶくれ症状

適用薬剤 ペリマークSC など

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く)



HPIから
こちらから



LINE公式
アカウント